

令和6年度 学校教育方針

令和6年4月1日

令和6年度「学校教育の重点」より

★京都市の目指す子ども像

「伝統と文化を受継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

～ 一人一人の子どもを徹底的に大切にする京都市の教育 ～

★3つの姿

広い視野と
豊かな感性を持ち、
より良い人生や社会を
創造できる

様々な学びを生かし、
社会的・職業的自立を
果たすことができる

多様な他者と共に生き、
学び合い、
人権文化の担い手とな
ることができる

★全教職員で進める学校園づくりの5つの柱

【いのち】 子どもの命を守りきる

【よりそい】 多様な子どもをだれ一人取り残さない教育を進める

【つとめ】 教職員の職責を自覚し、研鑽することで、教育の質を高める

【ひろがり】 カリキュラムマネジメントの視点をもって

社会に開かれた教育課程を実現する

【つながり】 校種間連携・接続により子どもを支える

★「生きる力」を育む15の取組

①「生きる力」を育む学びに向けた視点

②基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実

③探究活動と体験活動の充実

④グローバル化時代に対応する実践的英語力の育成

⑤LD等支援の必要な子どもの学力向上

⑥道徳教育の充実

⑦伝統文化・芸術や自然体験等を通じ、豊かな感性・情操を育む教育の充実

⑧発達支持的生徒指導の推進と規範意識の育成

⑨多様性を理解する姿勢の涵養

⑩支え合い高め合う集団づくりの推進と絆づくり

⑪運動やスポーツの実践と体力の向上

⑫保健教育の充実

⑬飲酒・喫煙・薬物に関する指導

⑭安全教育の充実

⑮食に関する指導の推進

★重視する視点

「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自らを律する力」を学校全体の教育活動の中で高める

小・中学校期における「自ら学ぶ力」

学ぶことに興味や関心を持ち、進路や将来の生き方と関連付けながら目標実現への見通しをもって粘り強く取り組むとともに、自己の学習活動を振り返り、学びをより良い方向に調整し、他社とも共同できる力

小・中学校期における「自ら律する力」

地域・社会との関わりの中で、他社への思いやりや寛容、人と人との絆の大切さを実感し他者と協調しつつ、自らの生活や人生、地域・社会をよりよくするため、時と場に応じた正しい判断と行動ができる力

- 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める
- 日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る
- 自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度を育む

令和6年度 学校教育委目標

自ら考え、共に学び、心豊かに、未来を創る子の育成

「～自分大好き みんな大好き 一人一人が輝く学校～」

【めざす子ども像】

自ら考え、学び合う子

- ・学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって取り組む
- ・自ら進んで学び、他者と協働できる

粘り強く、チャレンジする子

- ・最後まであきらめずにやりきる
- ・新しいこと・苦手なことにもチャレンジする

思いやりのある子

- ・自分も大事に、人も大事にできる
- ・お互いを認め合い、励まし合う
- ・人の役に立つことを喜びとする
- ・人や地域・社会とのつながりの中で豊かな人間性を育む

たくましい子

- ・自分の体を正しく理解し、体力の向上や健康的な生活を心がける
- ・自分の命は自分で守る

【めざす教職員像】

子どもを大切にする教職員

- ・子どもの命を守りきる
- ・子どもの思いに寄り添う
- ・子どもの成長に愛情をもって関わる
- ・子どもの持つ力を伸ばす

私たち(教職員)は、
『子どもにとっての最大の教育環境』
(私たちの言動・姿そのものが教育環境)

元気な教職員

- ・元気な教職員が元気な子どもを育む
- ・教職員のウェルビーイングを実現する(働き方改革の推進)

学び続ける教職員

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって授業改善や指導力の向上に努める
- ・GIGA スクール構想の下、ICT 機器を活用した新しい授業の構築を目指す

- ・一人一人の子どもの実態や課題に対して、適切な支援を行う
- ・自身の人権感覚を常に磨き、より人間性を高めていく

つながる教職員

- ・一人一人が自己の特性を生かし、それぞれの職責を果たす
- ・「チーム柏野」の一員としてお互いに認め合い、協力し支え合う
- ・お互いを尊敬し合い、あいさつ等声かけを大切にする
- ・全教職員が同じ思いで柏野の子どもを育てていく
- ・保護者・地域との協働で、よりよい学校をつくる

【めざす学校像】

あいさつと笑顔があふれる学校

- ・明るいあいさつや元気な声が聞こえる
- ・子どもが楽しく、安心して過ごせる

子どもの学力と豊かな心・健やかな体を育む学校

- ・互いに高め合える学級集団づくり・授業改善に取り組む
- ・一人一人が大切にされる、多様性を認め合う、居場所づくり
- ・体育科・特別活動などを通して、健康な体づくりを行う

地域・保護者と連携・協働する学校

- ・地域を活用した学習に取り組む（生活科・社会科・総合的な学習など）
- ・情報の発信を心がける（HP・学校だより・学年だよりなど）
- ・PTA・学校運営協議会との連携つながりを大切にする

【育成を目指す資質・能力】

- 自分で考え、自分の思いを持つ力
- 思いや考えを伝え、学び合う力

学校教育の基本指針

「確かな学力」の育成に向けて

○人権を基盤においた学級経営を図る

- ・生徒指導の4視点を生かした教育活動を充実させる。
- ・自己肯定感を高める。
- ・ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりや環境づくりをする。
- ・困りを抱える子どもへの適切な支援を行う

○一人一人の学びの主体性を引き出す指導の工夫・授業改善を図る

- ・育成をめざす資質・能力を踏まえ、カリキュラムマネジメントを推進する。
教科横断的な視点で組み立てる、学期ごとに実施状況を評価し、改善を図る。
実施に必要な環境を整える。
- ・学習規律の徹底と学び合う学習集団づくりをする。
- ・主体的・対話的で深い学び(1時間の授業の工夫と充実)で、学びの質を高める。
学習を見通し、振り返る場面(めあて・振り返り) グループ等で対話する場面、
子どもたちが考える場面と教師が指導する場面を工夫して授業を組み立てる。
一部教科担任制を実施し、授業の質向上を図る。
- ・ICT 機器を活用した授業改善
ICT 機器を日常的、効果的に活用することで、これまでの教育実践と適切に組合せ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。
- ・実践的英語力の育成
英語専科の授業、ALT の活用、担任との TT を通して、コミュニケーション能力を育成する。

○授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る

- ・家庭学習の大切さや内容・方法について指導するとともに、家庭との連携・協力を図りながら工夫する。
- ・日々の学校での授業と家庭学習を連動させ、ICT や自主学習ノートなどを活用して学習計画を立てて実行できるようにする。

○読書活動の充実

- ・学校司書による学校図書館の整備、充実を図り、学校図書館を「学習・情報センター」、「読書センター」として、各教科の学習において積極的に活用する。
- ・読書ノートを活用した「目指せ100冊！読書マラソン」運動などを通して、読書活動を促進し、学習の基盤となる言語能力の育成を図る。

「豊かな心」の育成に向けて

○道徳教育の充実

- ・6月及び10月を「道徳教育推進月間」と位置付け、公開授業やホームページ、学校だより等を通して、家庭・地域社会との共通理解、連携を図る。

○お互いの生き方や多様性を認め合う人権教育

- ・人権教育の年間計画をもとに、教職員、児童ともに社会における様々な人権課題について正しく学び、課題解決に向けて取り組もうとする人権尊重の精神と態度を育成する。
- ・教育活動全体を通して、自己肯定感、自己有用感を高め、お互いの生き方、考え方を総尊重し合える心情を育成する。

○規範意識の育成

- ・あいさつの励行、学習規律の徹底、基本的な生活習慣の確立、児童会活動、集団宿泊活動などを通して、望ましい人間関係を築き、集団の一員として協力する態度を育成する。
- ・情報モラルの学習を通して、インターネット等を正しく使い、役立てるために必要な力を育む。
- ・問題行動に対しては、「いけないことは、いけない」という毅然とした姿勢で指導を徹底する。家庭にも積極的に協力をも貯める。
- ・いじめはいじめた方が100%悪い、絶対に許されない行為であることを理解し、お互いに正義感をもって指摘し合える風土を醸成する。(自分も大事、人も大事)

○支え合い高め合う集団づくりと絆づくり

- ・友だちのもっている良さを見つけ、認め合い、互いに協力し合い、時には指摘し合うなどの絆を強めるとともに、自己肯定感、自己有用感などの自尊感情を高める。
- ・縦割り集団活動、部活動、特別活動を推進し、子どもの主体的、自発的な活動を重視するとともに、集団活動の楽しさを実感し、集団の一員として責任を果たす中で、自身を培い、自己実現につなげる。仲間と協力し、より良い人間関係を築き、他所と協働する力を育む。
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門職と連携を図る。

○伝統文化や芸術を通して、豊かな感性・情操を育む

- ・茶道等の伝統文化体験を通じて、伝統文化を守り伝えてきた人たちの歴史や情熱を受け継ぎ伝えることの大切さを理解する。
- ・「柏野学区」の伝統産業、歴史、文化を学び、地域への関心を高める。

○小中一貫教育と保幼小の架け橋プログラム及び、小小連携の推進

- ・衣笠中学校ブロックとして、共通の教育目標の設定や系統的な教育課程の編成・実施を図る。
- ・近隣の保育園・幼稚園との連携・交流の機会を設け、架け橋プログラムを推進し円滑な接続を図る。
- ・「生き方探求パスポート」を活用したキャリア教育の推進と中学校への接続を図る。
- ・学校統合に向けて、翔鸞小学校との連携を図る。

「健やかな体」の育成に向けて

○健康な体と体力向上のための取組の推進

- ・新しい生活様式の中で自らの健康を適切に管理し、基本的な生活習慣を実践していく力を育てる。
- ・体育学習や部活動を通して、運動やスポーツの楽しさや喜ぶ、達成感等を味わい、親しむ。
- ・ロング昼休みを定期的に設定し、児童会活動や縦割り活動を生かして運動遊ぶや集会活動を積極的に進める。

ジャンプアップ の取組

○生命尊重と健康や安全に対する自己管理能力の向上

・保健教育の充実

望ましい生活習慣を実践していくとともに、様々な感染症をはじめとする病気やケガに対して、その原因や予防について正しく知り、自分自身の健康を保持・増進しようとする意識と態度を育てる。

自身の命や体を大切にする心情を育てる。発達段階に合わせて、性に関する指導を保護者の理解を得ながら計画的に進める。(LGBT などの理解)

・飲酒・喫煙・薬物に関する指導の充実

飲酒・喫煙・薬物の有害性・危険性や医薬品についての正しい智識を身につける。薬物乱用防止教室を実施する。

・安全教育の充実

交通安全教室を実施し、交通ルールの順守、自転車の乗り方について指導を徹底する。

児童の救命救急学習、教職員の救命級救急研修を実施する。

定期的な避難訓練、シェイクアウト訓練を実施する。

緊急を要する場面を想定した実地訓練を全教職員で行い、一人一人が緊急時に適切な対応ができるようにする。

・食に関する指導の推進

食に関する指導を通して、望ましい食習慣を育み、心と体の健康のための食選力や食に関わる人、食物への感謝の心を育てる。

研修を通して、食物アレルギーのある児童について全教職員で共通理解し、アレルギー・アナフィラキシーに対する正しい理解に基づいた対応がとれるようにする。

緊急時に迅速かつ適切な対応がとれるように、エピペンの使い方について研修を行う。

「地域に開かれた学校づくり」に向けて

○本校教育の課題を明らかにし、学校の特色を示す取組

- ・本校の児童の実態や課題、保護者や地域の願いをもとに、学校教育目標を設定して、育成をめざす資質・能力を提示する。

○家庭や地域、学校との教育の協働活動の推進

- ・PTA・学校運営協議会との連携や学校評価の結果の共有を通して、よりよい学校づくりをめざす。

○地域素材を生かした取組の推進

- ・総合的な学習の時間の充実を図り、地域の伝統文化や伝統産業について学ぶ。
- ・地域の人材を開拓、整理するとともに、ゲストティーチャーを有効に活用する。

○内外に開かれた学校

- ・授業参観・懇談会・学校行事への参加や、HP・学校だよりなどを通して、情報発信を行う。

○安全教育、管理体制の強化

- ・地域ぐるみで、危機管理の徹底を図る。
- ・緊急時の対応と体制の共通理解し、訓練を実施する。

「働き方改革」に向けて

○学校全体での働き方の見直し

- ・一人一人が自らの働き方を見直し、ICTによる業務の効率化、優先順位等を工夫して意識改革に取り組む。
- ・学校行事と日常の学習活動を連動させ、取り組み方を工夫し、計画的に進める。
- ・教職員のウェルビーイングを実現することにより、教育の質のより一層の向上を図る。
(子どもと向き合う時間・教職員自身の学ぶ時間の創出)

○学校組織、体制、カリキュラムの見直し

- ・教材・プリントなどをデータにして保管し、共有して教材作成の時間を効率化する。
- ・毎週金曜日を全学年5校時までとし、放課後は研修・会議等に活用したり、教材準備・自己研鑽・事務処理等の時間に充てたりするようにする。
- ・毎週金曜日はエコデーとし、18時セットをめざす。